

MTF (複数時間枠)

- ◆ MTF = Multiple Time Frame
 - ◆ 複数時間枠
 - ◆ テクニカル分析において複数の時間枠 (一般的に短期と長期) を同時に利用する手法
- ◆ 短期と長期のチャートの一般的な特徴
 - ◆ 短期: 売買チャンスは多いが、ノイズも多い
 - ◆ 長期: 売買チャンスは少ないが、ノイズは少ない

MTFの考え方

- ◆ 複数のチャートを使う
 - ◆ (例) エルダールのトリプル・スクリーン
 - ◆ 例: 週足 → 日足 → 1時間足
- ◆ ひとつの指標に複数の時間を組み入れる
 - ◆ (例) プリングのKSTシステム(加重ROC)
 - ◆ $24\text{期間} \times 4 + 18\text{期間} \times 3 + 12\text{期間} \times 2 + 6\text{期間} \times 1$
- ◆ ひとつのチャートに上位時間枠の指標を表示
 - ◆ ロバート・クラウスが **Fibonacci Trader**で実現
 - ◆ MT4でMTFといった場合はこれを指す

クラウドのMTF

◆ クラウドのMTF

- ◆ 取引に使うチャート(Own)を見る場合、単一の時間枠だけでなく、上位時間枠(Next)のチャートも同時に見る。
- ◆ それぞれの時間枠には独自の傾向がある
 - ◆ パラメータの異なる単一時間枠で複数時間枠の代替は出来ない。(3週移動平均線≠15日移動平均線)
- ◆ 上位時間枠は下位時間枠に優先する
 - ◆ 上位時間枠のチャートに現れるポイントは、下位時間枠のチャートにおいても、重要なポイントとして作用。

MTFの例

- ◆ 最上位時間枠 (High) H
- ◆ 上位時間枠 (Next) N
- ◆ 下位時間枠 (Own) O (トレードチャート)

↓MN	H			
↓W1	N	H		
↓D1	O	N	H	
↓H4, H1		↑	N	H
↓M30, M15		O	O	N
↓M5, M1		↓	↓	O

- ◆ 日足はもっとも重要な時間枠
- ◆ 時間枠の比率は3~5倍を基本に考える (D1 → W1 → MN)

MT4のMTF

- ◆ 多くの指標がMTFに対応
 - ◆ 基本はクラウドのMTF
 - ◆ 分数で各時間枠を表現
 - ◆ MN = 43200
 - ◆ W1 = 10080
 - ◆ D1 = 1440
 - ◆ H4 = 240
 - ◆ H1 = 60
 - ◆ 一部の指標では、H1, H4と文字で表現することもある

MTFMAのその他のパラメータ

- ◆ 四本値 (applied_price)
 - ◆ 0 = 終値、1 = 始値、2 = 高値、3 = 安値
 - ◆ 4 = Mid、5 = ピボット、6 = (HLCC)/4
- ◆ 移動平均線の計算 (ma_method)
 - ◆ 0 = 単純移動平均
 - ◆ 1 = 指数平滑平均 (2 = スムースも同じ)
 - ◆ 3 = 加重移動平均

MTFMAでH1にDの指標

- ◆ 青 = 5日SMA、赤 = 20日SMA

